

全国道路施設点検データベース（道路橋）

サンプルデータ集

1. 橋梁リスト（77 条調査） 項目リスト	1
2. 点検表記録様式 様式例	11
3. 橋梁管理カルテ 様式例	14
4. 橋梁定期点検 様式例	19
5. 道路管理データ（MICHI） 様式例	32

対象	データ項目	サンプルデータ
全道路管理者の 約 73 万橋	詳細データ約 200 項目： 構造諸元（代表値）、点検結果、耐震補強状況等	1. 2.
国交省管理の 約 3.8 万橋	詳細データ計約 1,400 項目： 上記に加え構造諸元（構造体毎）、構造・材料種別点検結果（要素・部材単位を含む）、点検・補強履歴等	3. 4. 5.

1. 橋梁リスト（77 条調査） 項目リスト

	項目名		備考			
	施設 ID					
	施設区分		1:道路橋			
	更新日時		ISO8601 に準拠した日本時間			
管理用データ	年度					
	作業用施設番号					
	管理者コード					
	基礎年度					
作業フラグ	作業内容フラグ_区分					
	作業内容フラグ_内訳					
	作業内容フラグ_内訳補足					
諸元	橋梁形式					
	施設名	施設名				
		フリガナ				
	路線	路線名				
		道路種別	1:高速自動車国道 2:一般国道(指定区間) 3:一般国道(指定区間外) 4:都道府県道 5:市町村道			
	架設年次	架設年度	西暦 4 桁			
		推測架設年度	1:1900 年以前	2:1901~1910 年	3:1911~1920 年	4:1921~1930 年
			5:1931~1940 年	6:1941~1950 年	7:1951~1960 年	8:1961~1970 年
	9:1971~1980 年		10:1981~1990 年	11:1991~2000 年	12:2001~2010 年	
		13:2011~				
	供用年度		西暦 4 桁			
	橋梁種別		1:橋 2:高架橋 3:栈道橋			
	橋長(m)					
径間数						
幅員(m)						

諸元	構造形式	上部構造形式		
		上部構造形式(材料)		
		上部構造形式(構造)		
		下部構造形式		
		基礎形式		
		溝橋(カルバート)	1:○溝橋 2:●特定溝橋	
	管理者	区分	1:国 2:都道府県 3:道路公社 4:政令市 5:市区町村 6:高速道路会社	
		管理者名		
		管理事務所名		
	行政区域	都道府県コード		
		都道府県名		
		市区町村名コード		
		市区町村名		
	起点側の位置	緯度		
		経度		
		KP		
	上下線区別		1:上下線 2:上り線 3:下り線	
	緊急輸送道路種別		1:一次 2:二次 3:三次 4:市町村指定 8:指定なし	
	路下状況	道路	緊急輸送道路の有無	1:一次 2:二次 3:三次 4:市町村指定 8:指定なし 9:×
			道路橋下の管理者	1:国 2:都道府県 3:道路公社 4:政令市 5:市町村 6:高速道路会社 8:その他
		鉄道		1:新幹線 2:その他鉄道 9:無し
	代替路の有無		1:有 2:無	
	自専道または一般道		1:自専道 2:一般道	
高規格幹線道路区分		0:該当しない 1:A 2:A' 3:B		
占用物件(名称)				
備考				
老朽化対策	点検年度		西暦 4 桁	
	点検記録	点検実施年月		
		判定区分	1:I 2:II 3:III 4:IV 8:未点検 9:点検対象外	
		点検記録簿様式ファイル名		
		所見等(任意)		
長寿命化修繕計画		長寿命化修繕計画に位置づけられている場合は、1:○		
備考				

老朽化対策 (跨線橋)	確認書に 記載あり	点検・修繕計画 (現5箇年) (計画年度)	2014	1:●点検済 2:▲修繕済 3:■修繕中・協議済 4:○点検予定 5:△修繕予定 6:□協議開始予定			
			2015				
			2016				
			2017				
			2018				
			2019				
			2020				
			2021				
			2022				
			2023				
			2024				
			2025				
			2026				
	2027						
	2028						
	点検方法		鉄道事業者へ委託の場合、「1」を記入				
	修繕方法		鉄道事業者へ委託の場合、「1」を記入				
点検済分類		1:跨線部のみ	2:跨線部以外		3:全体		
跨線部判定結果		1:Ⅰ	2:Ⅱ	3:Ⅲ	4:Ⅳ		
修繕済分類		1:跨線部のみ	2:跨線部以外		3:全体		
跨線部再判定結果		1:Ⅰ	2:Ⅱ	3:Ⅲ	4:Ⅳ		
確認書に点検時期の記載なし		記載されていない理由	1:協議中		2:撤去予定	3:その他	
鉄道	J R	北海道旅客鉄道	北海道旅客鉄道 (うち新幹線)	東日本旅客鉄道	東日本旅客鉄道 (うち新幹線)		
		東海旅客鉄道	東海旅客鉄道 (うち新幹線)	西日本旅客鉄道	西日本旅客鉄道 (うち新幹線)		
		四国旅客鉄道	九州旅客鉄道	九州旅客鉄道 (うち新幹線)	日本貨物鉄道		
	大手民鉄	東武鉄道	西武鉄道	京成電鉄	京王電鉄	小田急電鉄	東京急行電鉄
		京浜急行電鉄	東京地下鉄	相模鉄道	名古屋鉄道	近畿日本鉄道	南海電気鉄道
京阪電気鉄道		阪急電鉄	阪神電気鉄道	西日本鉄道			
準大手	新京成電鉄	北大阪急行電鉄	泉北高速鉄道	神戸高速鉄道	山陽電気鉄道		
公営	仙台市	東京都	横浜市	名古屋市	京都市	神戸市	
		福岡市	大阪市高速電気軌道				

老朽化対策 (跨線橋)	鉄道	中小民鉄	津軽鉄道	弘南鉄道	仙台空港鉄道	福島交通	長野電鉄	上田電鉄
			アルピコ交通	富山ライトレール	黒部峡谷鉄道	富山地方鉄道	北陸鉄道	関東鉄道
			ひたちなか海浜鉄道	上毛電気鉄道	上信電鉄	秩父鉄道	銚子電気鉄道	小湊鉄道
			流鉄	北総鉄道	千葉ニュータウン鉄道	芝山鉄道	東葉高速鉄道	成田空港高速鉄道
			埼玉高速鉄道	首都圏新都市鉄道	東京臨海高速鉄道	江ノ島電鉄	箱根登山鉄道	伊豆箱根鉄道
			横浜高速鉄道	富士急行	伊豆急行	岳南鉄道	静岡鉄道	大井川鐵道
			遠州鉄道	豊橋鉄道	名古屋臨海高速鉄道		中部国際空港連絡鉄道	
			上飯田連絡線	東海交通事業	三岐鉄道	伊賀鉄道	養老鉄道	福井鉄道
			えちぜん鉄道	近江鉄道	嵯峨野観光鉄道	叡山電鉄	新関西国際空港	大阪外環状鉄道
			大阪港トランスポートシステム		関西高速鉄道	奈良生駒高速鉄道	水間鉄道	中之島高速鉄道
			西大阪高速鉄道	能勢電鉄	和歌山電鐵	和歌山県	紀州鉄道	一畑電車
			高松琴平電気鉄道	北神急行電鉄	神戸電鉄	水島臨海鉄道	島原鉄道	伊予鉄道
			筑豊電気鉄道	成田高速鉄道アクセス		熊本電気鉄道	万葉線	広島電鉄
四日市あすなろう鉄道		四日市市	伊賀市	養老線管理				
中 小 民 鉄 (転換鉄道等)	青森県	青い森鉄道	アイジーアールいわて銀河鉄道	三陸鉄道	由利高原鉄道			
	秋田内陸縦貫鉄道	山形鉄道	阿武隈急行	会津鉄道	北越急行	しなの鉄道		
	あいの風とやま鉄道	のと鉄道	えちごトキめき鉄道	アイアール石川鉄道	鹿島臨海鉄道	真岡鐵道		
	野岩鉄道	わたらせ渓谷鐵道	いすみ鉄道	天竜浜名湖鉄道	愛知環状鉄道	伊勢鉄道		
	樽見鉄道	明知鉄道	長良川鉄道	信楽高原鐵道	北近畿タンゴ鉄道	北条鉄道		
	井原鉄道	錦川鉄道	智頭急行	若桜鉄道	若桜町	八頭町		
	甘木鉄道	平成筑豊鉄道	松浦鉄道	肥薩おれんじ鉄道	南阿蘇鉄道	くま川鉄道		
	北九州市	土佐くろしお鉄道	阿佐海岸鉄道	道南いさりび鉄道	甲賀市	WILLER TRAINS		
	貨物鉄道 (JR貨物除き)	太平洋石炭販売輸送	八戸臨海鉄道	岩手開発鉄道	仙台臨海鉄道	秋田臨海鉄道	福島臨海鉄道	
		京葉臨海鉄道	神奈川臨海鉄道	名古屋臨海鉄道	衣浦臨海鉄道	西濃鉄道		
モノレール	湘南モノレール	舞浜リゾートライン	東京モノレール					
新交通システム	東京都	札幌市	埼玉新都市交通	山万	ゆりかもめ	西武鉄道		
	大阪市	高速電気軌道	大阪港トランスポートシステム	神戸新交通	広島高速交通			
鋼索鉄道	(財)青函トンネル記念館		立山黒部貫光	筑波観光鉄道	高尾登山鉄道	御岳登山鉄道		
	大山観光電鉄	比叡山鉄道	鞍馬寺	丹後海陸交通	六甲山観光	四国ケーブル		
	一般財団法人神戸すいまち		皿倉登山鉄道	ラクテンチ	箱根登山鉄道	伊豆箱根鉄道		
	京福電気鉄道	京阪電気鉄道	近畿日本鉄道	南海電気鉄道	能勢電鉄	北九州市		
無軌条電車	関西電力	立山黒部貫光						

老朽化対策 (跨線橋)	軌道	公営	函館市 東京都	大阪市高速電気軌道	熊本市	鹿児島市	札幌市	
		中小民鉄	万葉線 長崎電気軌道 富山市	京福電気鉄道 富山地方鉄道	阪堺電気軌道 富山ライトレール	岡山電気軌道 豊橋鉄道	広島電鉄 福井鉄道	とさでん交通 伊予鉄道
		モノレール	千葉都市モノレール	スカイレールサービス	多摩都市モノレール	大阪高速鉄道	北九州高速鉄道	沖縄都市モノレール
		新交通システム	横浜シーサイドライン ゆりかもめ	名古屋ガイドウェイバス 大阪市高速電気軌道	神戸新交通	広島高速交通 宇都宮ライトレール	愛知高速交通 宇都宮市	東京都 芳賀町
	その他	鉄軌道事業者コードにない鉄道						

通行規制	規制内容		1:全面通行止	2:車両通行止め(歩行者通行可)	3:車両通行制限あり(歩行者通行可)			
	規制内容詳細		4:上記以外の規制あり	5:規制なし				
	新規追加		・重量 ・高さ ・車幅 等の制限内容を記載					
	規制内容変更							
	規制開始年度							
	規制までの橋齢							
	規制解除(予定)年度							
	規制原因							
	原因コード		1:設計条件	2:構造条件	3:大型交通増加	4:劣化損傷(老朽化)	5:災害	6:その他
	具体的 内容	分類	1:桁等の主部材	2:床版	3:橋台・橋脚	4:設計の陳腐化	5:その他	
		詳細内容						
補修等 実施状 況	補修等実施状況	1:補修事業予定、中、完了	2:架替事業予定、中、完了	3:撤去事業予定、中、完了	4:廃止予定、廃止完了	5:措置未定		
	実施予定時期	「決定」or「未定」						
	実施予定時期が「決定」の 場合の実施予定年月	実施予定年月						
	措置方針が「撤去」の場合	1:単純撤去	2:集約撤去					

耐震補強	新設設計時の適用基準		1:S46 耐震設計指針より前 4:H2 道示 7:H24 道示	2:S46 耐震設計指針 5:H8 道示（復旧仕様含む） 8:H29 道示	3:S55 道示 6:H14 道示 9:不明	
	橋の重要度		A. A種の橋:地震による損傷が橋として致命的とされない性能 B. B種の橋:地震による損傷が限定的に留まり、橋としての機能の回復が速やかに行い得る性能			
	耐震補強の 状況	状況	1:性能2を満足 2:性能3を満足、性能2を満足していない 3:性能3を満たしていない			
		性能3を満たし ていない場合	性能3を満たすための 対策状況	1:未着手 2:設計中 3:工事中		
			対策完了目標年度	対策完了目標		
		性能3を満足、 性能2を満足し ていない場合	性能2を満たすための 対策状況	1:未着手 2:設計中 3:工事中		
	対策完了目標年度		対策完了目標			
	橋種_一般橋					
	橋種_特殊橋_トラス橋					
	橋種_特殊橋_吊り橋					
	橋種_特殊橋_斜張橋					
	橋種_特殊橋_その他特殊橋					
	対策メニュー	基礎（フーチング含む）				
		橋台				
		橋脚				
橋脚_段落とし部						
縁端拡幅						
落橋防止構造						
変位制限構造（横変位拘束構造）						
支承交換						
段差防止構造						
上部工補強						
その他						
図面の有無		1:竣工図あり 2:竣工図なし				

耐震補強	基礎の耐震補強照査時の適用基準・図書類	適用基準・図書類	1:H8 道示（復旧仕様含む） 2:H14 道示 3:H24 道示 4:既設道路橋基礎の補強に関する参考資料（H12.2、日本道路協会） 5:既設道路橋基礎の耐震性能簡易評価手法に関する研究（H22.5、土木研究所） 6:その他の基準・図書類 7:基礎の耐震補強照査を実施していない 8:不明
		基礎の照査結果	1:対策不要 2:要対策 3:不明
		液状化エリア	1:液状化が想定されるエリア内の橋梁 2:液状化の想定されるエリア外の橋梁 3:不明
		簡易判定	1:損傷度Ⅳ又はⅢ以下 2:損傷度Ⅴ(要対策) 3:個別判定
	単径間の橋梁について	1:直橋 2:斜橋・曲線橋 ※単径間の橋梁のみ対象	
	単径間の橋梁の照査の有無	1:実施 2:未実施	
	ロッキング橋脚を有する橋梁（「1」を記載）		
	パイルベント橋脚を有する橋梁（「1」を記載）		
	全国地震予測地図での発生確率	1:26%以上 2:6%以上～26%未満 3:～6%未満	

高速跨道橋に関する調査項目	用途種別					
	跨道橋の状況	現在未使用				
		今後の利用の有無	1:1.今後も継続して利用 3:3.現在利用しているが将来不要	2:2.現在利用していないが将来利用計画あり 4:4.今後の利用計画なし		
		撤去計画の有無	1:有	2:無		
		撤去計画無しの理由				
	跨道橋下の管理者	会社名	1:NEXCO 東日本 4:首都高速道路	2:NEXCO 中日本 5:阪神高速道路	3:NEXCO 西日本 6:本四高速道路	
		支社名				
		事務所名				
	跨道橋下の路線情報	路線区別				
		高速道路等名称				
	位置情報	IC 間・自				
		IC 間・至				
		KP				
	管理協定	跨道橋下の管理者と管理協定を締結している				
		管理協定を締結していない場合、理由を記載				

高速跨道橋に関する調査項目	点検状況	実施状況	1:実施 3:未実施				2:未実施(供用5年以内) 4:不明		
		点検を委託(高速道路会社等が受託)で実施							
		点検方法	1:近接目視・打音検査(H26以降) 3:遠方目視(H26以降)		2:近接目視・打音検査(H25以前) 4:遠方目視(H25以前)				
		跨道橋下管理者との共有	1:点検状況を報告している		2:点検状況を報告していない				
	点検結果	最新の点検時期							
		点検結果の判定	1:必要		2:不要				
	修繕の内容	はく落対策	yyyy 年度実施済	yyyy 年度実施予定	未実施	- (不要)			
		壁高欄補修	yyyy 年度実施済	yyyy 年度実施予定	未実施	- (不要)			
		コンクリたたき落とし	yyyy 年度実施済	yyyy 年度実施予定	未実施	- (不要)			
		塗替塗装	yyyy 年度実施済	yyyy 年度実施予定	未実施	- (不要)			
		クラック補修	yyyy 年度実施済	yyyy 年度実施予定	未実施	- (不要)			
		架替	yyyy 年度実施済	yyyy 年度実施予定	未実施	- (不要)			
		その他	具体的な補修内容を記載						
			年度実施済か	yyyy 年度実施済	yyyy 年度実施予定	未実施	- (不要)		
		計画が未実施の場合に理由を記載	1:①予算不足 4:④将来撤去予定		2:②技術者不足 5:⑤実施時期検討中				3:③優先順位が低い
	耐震補強 (実施状況・計画)	耐震補強済・不要							
		耐震未照査に該当							
		前項で耐震未照査橋梁とした橋梁の照査実施計画	yyyy 年度	未定					

高速跨道橋に関する調査項目	未移管跨道橋移管状況	未移管橋梁	未移管の場合に「1」を記入				
		未移管橋梁区分	1:管理について、協定または覚書を交わしているもの 2:管理について、協定または覚書を交わしたが、記録が残っていないもの 3:管理（移管）について、協定または覚書をかわしていないもの 4:移管について、協議しているが、難航しているもの 5:移管について、協定または覚書を交わす協議中のもの				
		要請（公表）するべきもの	該当する場合に「1」を記入				
		本来管理者フラグ	3:都道府県 6:国等機関	4:政令市 7:民間	5:市区町村 8:その他	9:不明	
		本来管理者名（移管予定先）					
		移管後、道路法上の道路になるもの					
		移管後の用途種別	01:道路橋（高速国道） 04:道路橋（都道府県道） 06B:歩道橋（都道府県道） 09:道路橋（林道） 12:道路橋（法定外公共物） 15:水管・水道橋（農業用水） 18:ガス管橋	02:道路橋（一有） 05:道路橋（市区町村道） 07:歩道橋（市区町村道） 10:道路橋（私道） 13:水管・水道橋（上水） 16:水管・水道橋（工業用水） 19:鉄道橋	03:道路橋（国道） 06A:歩道橋（国道） 08:道路橋（農道） 11:道路橋（公共用道路） 14:水管・水道橋（下水） 17:水管・水道橋（法定外公共物） 20:鉄道橋（モルルール等）		
		移管状況	1:移管予定なし	2:未協議	3:協議中	4:協議済	5:協定締結済
		移管時期					

2. 点検表記録様式 様式例

様式1

橋梁名・所在地・管理者名等

サンプルの為、削除しています

個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度		橋梁ID
(フリガナ)	一般国道 号 現道			経度		
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
	2019.9.2		有	一般道	一次	上水道,電力,電話,ガス

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者

定期点検時に記録				応急措置後に記録		
部材名	判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	I				
	横桁	I				
	床版	II	その他(漏水・遊離石灰)	写真3, 床版00		
下部構造	II	その他(その他)	写真4, 豎壁01			
支承部	I					
その他	II	破断	写真6, 排水ます0101			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I ~ IV)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
II	床版の損傷は遊離石灰であり、張出床版、歩車道境界、中央分離帯直下の格間に発生しており、橋面防水工不良が原因と推定され、予防保全の観点から補修が必要である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)



架設年次	橋長	幅員	起点		終点
1974年	18m	30.80m			
橋梁形式					
単純合成鉄桁橋					
控え壁式橋台2基					
場所打ぐい(深礎を含む)2基					

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

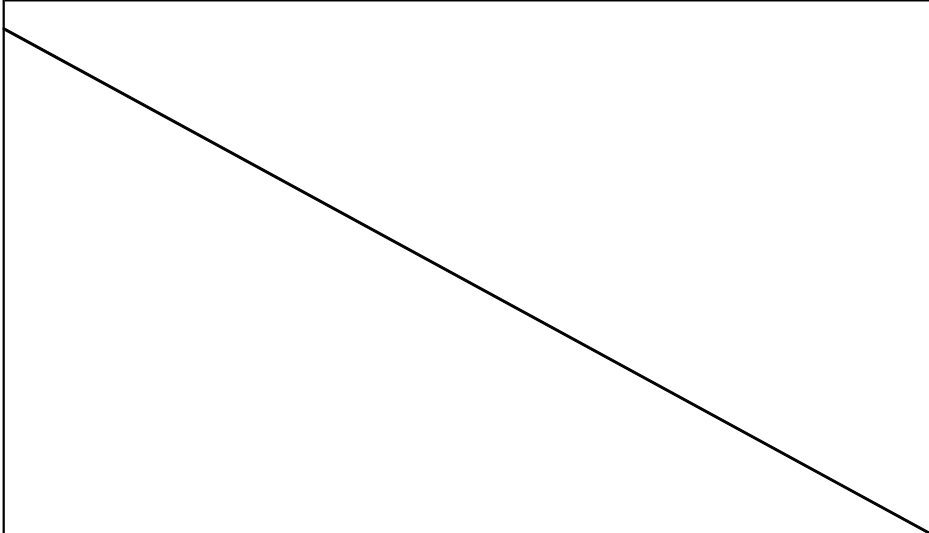

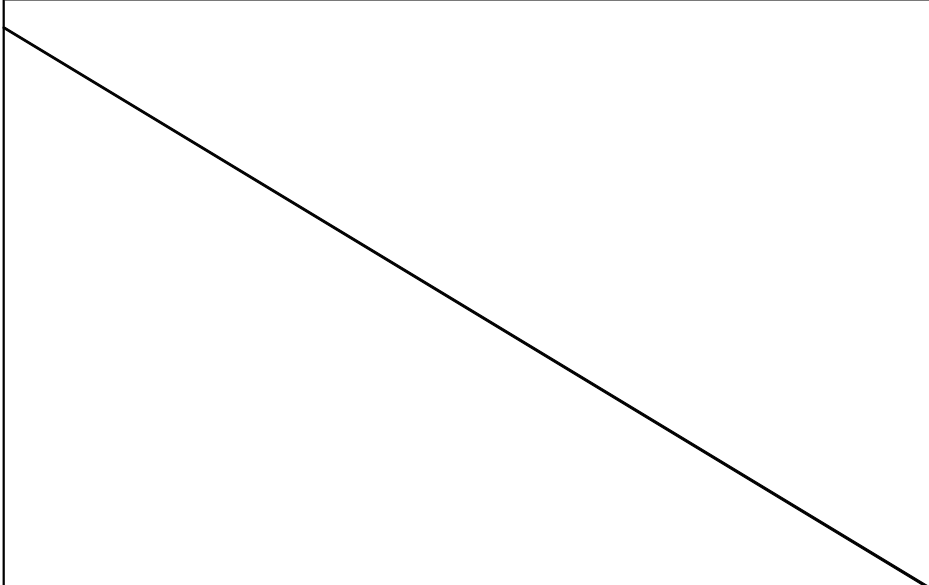
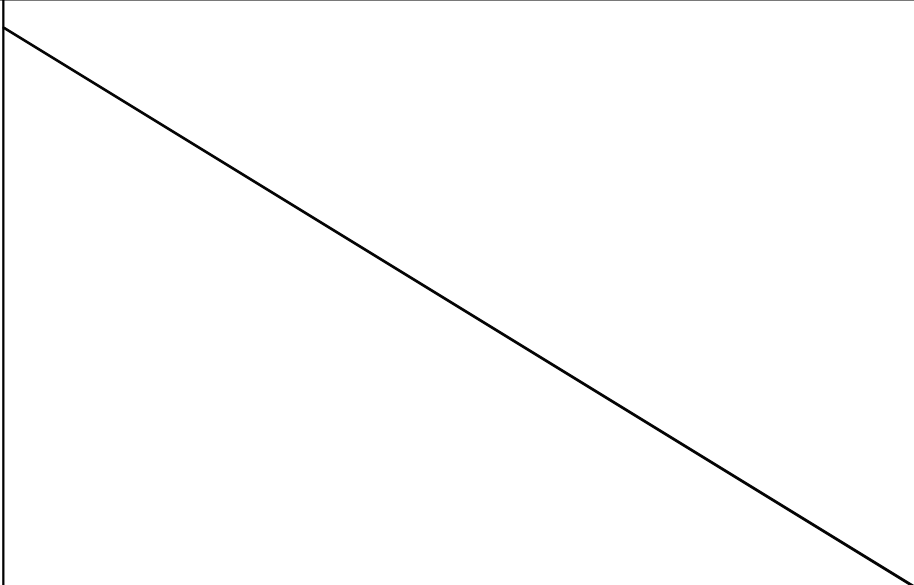
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

<p style="text-align: center;">上部構造(主桁)【判定区分: Ⅰ】</p>	<p style="text-align: center;">上部構造(横桁)【判定区分: Ⅰ】</p>
<p style="text-align: center;">上部構造(床版)【判定区分: Ⅱ】</p> <p>写真3, 床版, 部材番号00, 要素番号0301, 径間1-1, その他(漏水・遊離石灰)</p> 	<p style="text-align: center;">下部構造【判定区分: Ⅱ】</p> <p>写真4, 縦壁, 部材番号01, 要素番号0101, 径間1-1, その他(その他)</p> 

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真に記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

支承部【判定区分: Ⅰ】	その他【判定区分: Ⅱ】
	<p data-bbox="1122 288 1771 320">写真6, 排水ます, 部材番号, 要素番号0101, 径間1-1, 破断</p> 
<p data-bbox="663 823 875 855">【判定区分: 】</p>	<p data-bbox="1559 823 1771 855">【判定区分: 】</p>
	

橋梁概要		起点側 緯度	緯度	終点側 経度	経度	橋梁ID
ブリガマ 橋梁名称		完成年度	1974			
路線名	一般国道	所在地	白	距離	百米橋5.8km + 距離16m	
橋梁番号		所在地	至	距離	百米橋5.8km + 距離34m	

2020年07月29日

橋梁区分	本線橋	橋梁形式	単純合成版桁橋	等級	1等橋	設計活荷重	T.L-2.0
橋梁種別	1	橋長(m)	17.500	上部構造	昭和47年 道路標示方書 1共通欄と鋼橋欄	設計震度	0.25
分割区分	上下橋一体	橋面積(m2)	525.0	下部構造	昭和43年 道路橋下部構造設計指針橋台、橋脚の設計基準	施工会社	上部構造 富士車輛 下部構造 湖池組
事業区分	街路	総径間数	1	耐震補強		荷重制限(tf)	通行制限 無し
架橋状況	河川・開水路・湖沼	平面形状	斜橋			迂回路の有無	有り
交差物名称		平面線形(m)					
塩害地域区分	D	縦断勾配(%)	1,600				

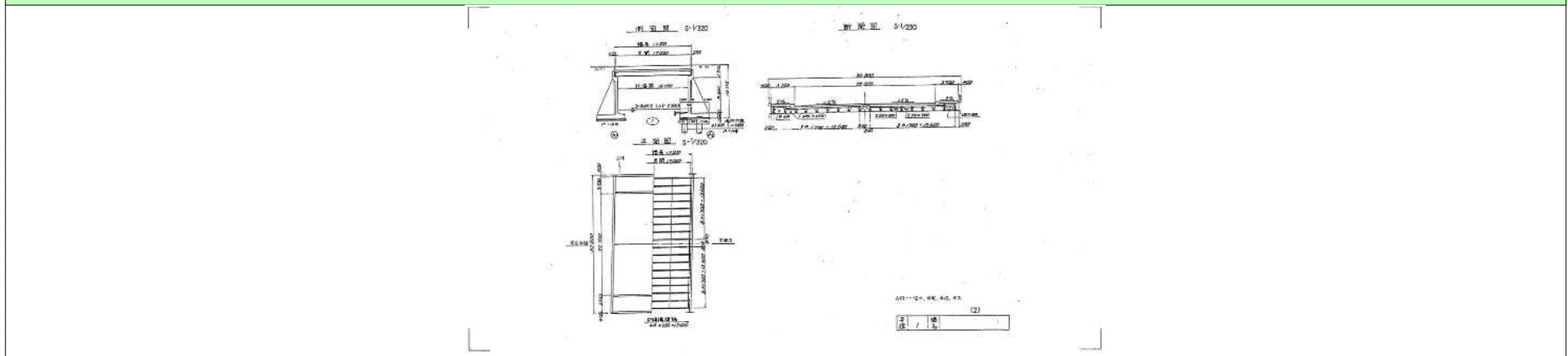
幅員構成		左側(m)						中央帯(m)	分離帯(m)	右側(m)					
全幅員(m)	有効幅員(m)	地覆幅	地覆高さ	歩道幅	路肩幅	車線幅	車線数			車線数	車線幅	路肩幅	歩道幅	地覆高さ	地覆幅
30.80	30.00	0.40	0.15	3.75	0.75	9.75	3	1.50	1.00	3	9.75	0.75	3.75	0.15	0.40

構造体番号	主材材料区分	支間長(m)	桁高(m)	桁本数	上部構造形式	路面位置	床版材料区分	床版厚(cm)	場所打床版	床版形式	防水工有無
1	鋼	17.000m	0.80	9	単純鋼合成版桁橋	上路橋	コンクリート系	17.0	場所打床版		
2	鋼	17m	0.8	9	単純鋼合成版桁橋	上路橋	コンクリート系	17	場所打床版		

躯体番号	下部構造材料区分	下部構造高(m)	下部構造形式	基礎材料区分	基礎構造形式	杭径(m)	杭本数	支承形式
A1	RC	10.72	控え壁式橋台	RC	場所打ぐい(深礎を含む)	1.5	16	可動線支承, 固定線支承

添架物区分	種別	寸法	本数	管理者	塗装	塗料	塗布回数	点検施設	点検施設無し
占用添架物	上水道	0400	1	東京都水道局	プライマー	エポキシ樹脂下塗り塗料			
占用添架物	電力			東京電力(株)	下塗り塗料	エポキシ樹脂下塗り塗料			
占用添架物	電話			日本電信電話(株)	中塗り塗料	フッソ樹脂用中塗り塗料		排水施設	たれ流し型式
占用添架物	ガス	400	1	東京ガス(株)	上塗り塗料	フッソ樹脂上塗り塗料		遮音壁の有無	無し
								高欄種別	高欄, 防護柵, 防護柵, 高欄

【一般図】
全体一般図

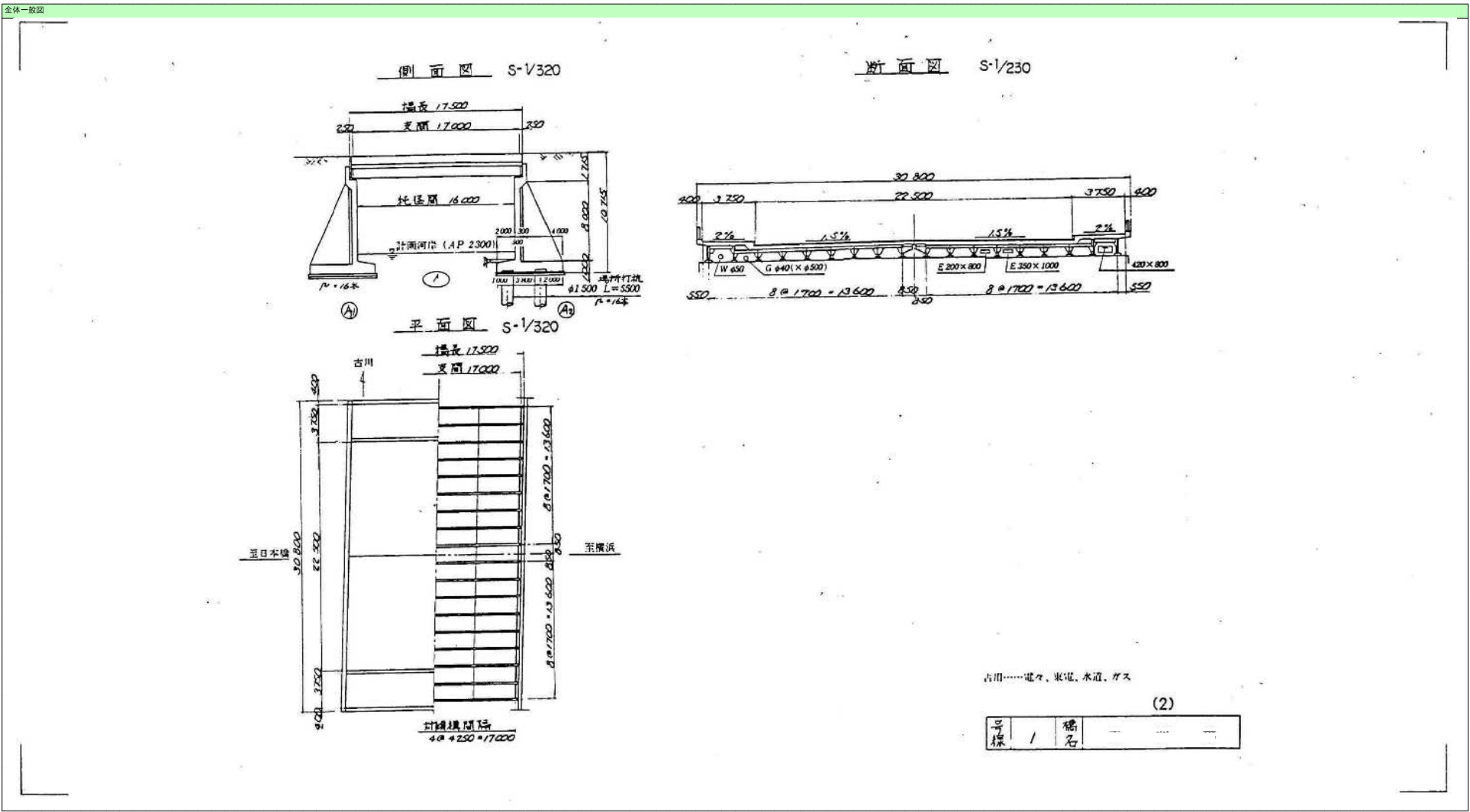


橋梁概要		完成年度	1974	起点側 橋度: 標度:	終点側 橋度: 標度:	橋梁ID
フリガナ 橋梁名称		所在地	白	橋脚		
路線名	一般国道	所在地	白	橋脚		
橋梁番号		所在地	白	橋脚		
		距離標	白	橋脚		
		距離標	白	橋脚		

サンプルの為、削除しています

履歴更新年月日 2020年07月29日

【一般図】



総合検査結果			起立期 緯度	起立期 経度	橋架ID
フリガナ 橋名		完成年度	1974		
路線名	一般国道	所在地	白	区別	白
橋架番号		路線標	白	管轄	
			百米標5.8km + 距離16m		
			百米標5.8km + 距離34m		

履歴 一覧番号	年月日	種別・名称	総合検査結果	健全度 (確率)	代表対策 区分
1	1986年03月31日	補修工事			
2	1990年03月24日	補修工事			
3	1992年02月28日	補修工事			
4	1995年03月01日	定期点検	1.下記、損傷部材・部位については「すみやかに補修」するのが望ましい。 ・舗装のひびわれ ・排水施設の上砂送り 2.下記、損傷部材・部位については「追跡調査」を要する。(1回/2年) ・RC床版の剥離・鉄筋露出、遊離石灰、豆板・空洞、床版ひびわれ ・橋台のひびわれ		
5	2005年02月04日	定期点検(初回)	本橋は、昭和49年(1974年)に竣工した単純鋼管接合桁橋である。適用方書は昭和39年「道路橋示方書」であり1等橋である。竣工後30年経過しており、以下に述べる損傷が見受けられる。床版の一部でかぶりコンクリートが剥離し鉄筋が露出している。また、ひびわれが2方向に広がっている箇所もあり床版耐力不足と考えられる。ひびわれは0.1mm~0.2mm程度であり、状況に応じた補修を行う必要がある。補修工法として、ひびわれ注入工法、断面修復による補修が考えられる。劣化損傷の発生は一部に限られるが、悪化が進行している。 橋台設置に、舗装を伴う幅0.4mのひびわれが鉛直方向に発生している。桁下が河川であり第三者被害が直接受ける部位ではないので、状況に応じた補修を行う必要がある。補修工法として、ひびわれ注入工法、断面修復等の補修が考えられる。 主桁材以外の損傷として、資産モルタルのひびわれ、変形・欠損が数箇所において発生している。これは、支承の周りのモルタルと考えられ損傷程度から判断して、状況に応じた補修が必要であると考えられる。補修工法として、橋脚注入工法、モルタル補修工が考えられる。		
6	2005年03月31日	補修工事	適切な補修が行われている。		
7	2009年12月14日	定期点検	本橋は架設後35年が経過している。橋架形式は、鋼単純合成桁橋である。 (1) 対策区分E1、C、S(損傷と補修方法) なし (2) 対策区分B、M 床版のひびわれ：ひびわれ幅は小さいが2方向ひびわれが発生している。疲労によるものと推測する。前回(H16)点検時からの進行性が見られないためB判定とした。 (3) その他特記事項 上記以外ほ特になし		
8	2011年03月15日	補修工事			B
9	2014年10月07日	定期点検	本橋は供用後40年が経過した「単純合成桁橋」である。再塗装後10年が経過している。 【健全度】 ◇Ⅱ：予防保全段階 【対策区分】 ※「→」の後ろは代表的な補修工法等 E1+E2：緊急対応の必要がある損傷 ◇なし C2：橋架構造の安全性の観点から、速やかに補修する必要がある損傷 ◇なし C1：予防保全の観点から、速やかに補修する必要がある損傷 ◇漏水・遊離石灰：床版(第1-1-2区間) → 橋脚防水 ◇舗装の劣化：舗装(第1-2区間) → ジョイントの交換(止水) ◇海水・湧水：胸壁(A1-A2) → 伸縮装置の非排水化 ◇変形・欠損：伸縮装置(第1-2区間) → 伸縮装置の交換 S1：詳細調査の必要がある損傷 ◇なし S2：追跡調査の必要がある損傷 ◇なし M：維持工事で対応する必要がある損傷 ◇前桁：排水ます(第1-1区間) ◇路蓋の凸凹：舗装(第1-1-2区間) → 路面のすり付け ◇変形・欠損：伸縮装置(第1-1区間) → 路面のすり付け ◇的送り、排水ます(第1-1-2区間) 【維持管理上の問題点、留意事項】 ◇車道土の経目地、歩道境界、中央分離帯の頂下で湧水が生じている。床版ひびわれや鋼部材の腐食を助長する原因であるので、防水を行う必要がある。 ◇伸縮装置からの漏水も確認されており、非排水化するのよい。 ◇橋台と橋脚壁に隙間があり、変状が継続しているかを次回点検で確認する必要がある。	II	C1
10	2017年11月10日	第三者被害予防措置	判定区分P：なし 判定区分C：なし 判定区分B：床版(1-2区間)、堅壁(全径間)		
11	2019年09月02日	定期点検	本橋は供用後45年経過した「単純合成桁橋」である。再塗装後9年が経過している。 1. 橋としての健全度の評価判定に至った経緯 本橋は、床版に、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態(部材単位の健全度II)にある。 ・床版の損傷は遊離石灰であり、突出床版、歩道境界、中央分離帯下の橋脚に発生しており、橋脚防水工不良が原因と推定される。 ・前回点検(H20)から、損傷範囲は拡大は見られないが、劣化は間接損傷を助長させる原因となっている。 ・よって、予防保全、原状回復の観点から、橋としての健全度を「II」とした。 2. 橋の耐久性および維持管理等の観点から最正が必要と考えられる主な事項 1) 突出床版の切り取りのときは、叩き点検で落ちなかった損傷である。第三者被害が想定されるため剥離対策を行うのが望ましい。(C1判定) 2) 橋脚と堅壁の境界面に、補修工事時のコンクリート、ガラクタや残材が放置されている。維持工事で除去するのが望ましい。(M判定) 3) 既設の排水ますの劣化が顕著している。第三者被害が想定されるため、維持工事で更新するのが望ましい。その際には、土砂詰まりも解消する必要がある。(M判定) 3. 前回定期点検結果から健全性の診断結果(区分)が変わった理由 健全性の診断結果に変更なし。 4. 発生損傷一覧 C1：予防保全の観点から、速やかに補修する必要がある損傷 ■漏水・遊離石灰：床版(第1-1-2区間) → 剥離対策 ■雨水・遊離石灰：胸壁(A1-A2)、堅壁(A1-A2) → 排水ます(第1-2区間) → 排水ます(第1-2区間) → 撤去、清掃 M：維持工事で対応する必要がある損傷 ■ゆるみ・脱着：防護(第1-1区間) → 再設置 ■破砕：排水ます(第1-1-2区間) → 更新 ■その他(コンクリートガラ、残材)：堅壁(A1-A2) → 撤去 ■土砂詰まり：排水ます(第1-2区間) → 撤去、清掃 B：状況に応じて補修する必要がある損傷 ■前桁：主桁(第1-2区間)、縦桁(第1-1-2区間)、支承本体(第1-1-2区間)、防食機頭(第1-1-2区間)、主桁(第1-1-2区間)、支承本体(第1-1-2区間) ■ひびわれ：胸壁(A1-A2)、堅壁(A1-A2)、資産モルタル(第1-1区間)、地盤(第1-1-2区間)、中央分離帯(第1-1区間) ■剥離：鉄筋露出：床版(第1-1-2区間)、胸壁(A1-A2)、堅壁(A1-A2)、地盤(第1-1-2区間)、伸縮装置(第1-1区間) ■海水・遊離石灰：胸壁(A1-A2)、堅壁(A1-A2) ■変形・欠損：ひびわれ：床版(第1-1-2区間) ■うき：堅壁(A1-A2)、資産モルタル(第1-1-2区間) ■その他(隙間)：橋脚壁(第1-1区間) ■海水・湧水：胸壁(A1-A2) ■変形・欠損：胸壁(A1)、資産モルタル(第1-1-2区間)、防護欄(第1-1区間)	II	C1
12	2019年09月02日	第三者被害予防措置	判定区分P：なし 判定区分C：なし 判定区分B：床版(1-1区間)、堅壁(全径間)		

4. 橋梁定期点検 様式例

ver 1.0.0

サンプルの為、削除しています

個人情報の為、他管理施設の閲覧はできません（空欄で表示されます）

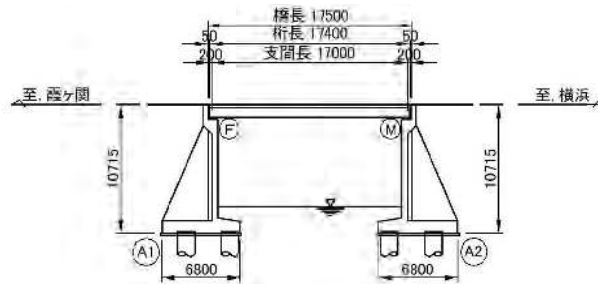
定期点検記録様式(その1) 橋梁の諸元と総合検査結果				起点側	緯度	経度	終点側	緯度	経度	橋梁ID							
フリガナ 橋梁名				路線名	一般国道 号 現道					橋梁コード	0208						
所在地	自				距離標	自	百米標5.8km + 距離16m			管轄	調査更新年月日	2020年03月30日					
	至					至	百米標5.8km + 距離34m				現地確認年月日	2019年09月02日					
供用開始日	2019年09月02日	橋長	17.50m	活荷重・等級	TL-201等橋		適用示方書	昭和47年 道路橋示方書 1共通編 2鋼橋編				調査年	2015年				
上部構造形式	単純合成鉄桁橋			幅員	全幅員	30.80m	地覆幅	歩道幅	車道幅・車線	車道幅・車線	歩道幅	地覆幅	中央帯	中央分離帯	交通条件	調査年	2015年
					有効幅員	30.00m	0.40m	3.75m	9.75m	3	9.75m	3	3.75m	0.40m		1.50m	1.00m
下部構造形式	控え壁式橋台2基			備考	点検会社：復建エンジニアリング・首都高技術設計共同体 点検方法：船上、梯子 近接不可範囲：無 支障物：無 関係協議先：港区、三田警察署 橋面防水工：有 2010年12月 再塗装：有 2011年2月 第三者被害予防処置範囲：全径間床版下面・地覆側面、A1・A2堅壁(航路 古川) 補修履歴：高欄取替え(1986.3)、沓座縁端拡幅 鋼製ブラケット(1990.3)、塗装塗替え(1992.2)落橋防止装置・防護柵付替え(2005.3)、塗装塗替え(2011.2)、舗装打替え、伸縮装置交換、縁石交換(2019.8) 構造上の特記事項：無										大型混入率	7.5%	
基礎形式	場所打ぐい(深礎を含む)2基				荷重制限												
総合検査結果	健全度 (橋単位)	II										橋梁診断員					
	<p>本橋は供用後45年経過した「単純合成鉄桁橋」である。再塗装後9年が経過している。</p> <p>1. 橋としての健全度の評価判定に至った経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> 本橋は、床版に、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態（部材単位の健全度II）にある。 床版の損傷は遊離石灰であり、張出床版、歩車道境界、中央分離帯直下の格間に発生しており、橋面防水工不良が原因と推定される。 前回点検（H26）から、損傷範囲に拡大は見られないが、漏水は関連損傷を助長させる原因となっている。 よって、予防保全、原因排除の観点から、橋としての健全度を「II」とした。 <p>2. 橋の耐久性および維持管理等の観点からは正が必要と考えられる主な事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 張出床版の水切り部下面のうきは、叩き点検で落ちなかった損傷である。第三者被害が想定されるため剥落対策を行うのが望ましい。（C1判定） 両橋台堅壁の橋座面に、補修工事時のコンクリートガラや残材が放置されている。維持工事で撤去するのが望ましい。（M判定） 路面の排水ますの蓋が破断している、第三者被害が想定されるため、維持工事で更新するのが望ましい。その際には、土砂詰まりも解消する必要がある。（M判定） <p>3. 前回定期点検結果から健全性の診断結果（区分）が変わった理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 健全性の診断結果に変更なし。 <p>4. 発生損傷一覧</p> <p>C1：予防保全の観点から、速やかに補修する必要がある損傷</p> <ul style="list-style-type: none"> 漏水・遊離石灰：床版(第1-1・1-2径間) →止水措置 うき：床版(第1-1径間) →剥落対策 <p>M：維持工事で対応する必要がある損傷</p> <ul style="list-style-type: none"> ゆるみ・脱落：防護柵(第1-1径間) →再設置 破断：排水ます(第1-1・1-2径間) →更新 その他（コンクリートガラ、残材）：堅壁(A1・A2) →撤去 土砂詰まり：排水ます(第1-2径間) →撤去、清掃 <p>B：状況に応じて補修する必要がある損傷</p> <ul style="list-style-type: none"> 腐食：主桁(第1-2径間)、縦桁(第1-1・1-2径間)、支承本体(第1-1・1-2径間) 防食機能の劣化：主桁(第1-2径間)、縦桁(第1-1・1-2径間)、支承本体(第1-1・1-2径間) ひびわれ：胸壁(A1・A2)、堅壁(A1・A2)、沓座モルタル(第1-1径間)、地覆(第1-1・1-2径間)、中央分離帯(第1-1径間) 剥離・鉄筋露出：床版(第1-1・1-2径間)、胸壁(A1)、堅壁(A1・A2)、地覆(第1-1・1-2径間)、袖擁壁(第1-1径間) 漏水・遊離石灰：胸壁(A1・A2)、堅壁(A1・A2) 床版ひびわれ：床版(第1-1・1-2径間) うき：堅壁(A1・A2)、沓座モルタル(第1-1・1-2径間) その他（隙間）：袖擁壁(第1-1径間) 漏水・滲水：胸壁(A1・A2) 変形・欠損：胸壁(A1)、沓座モルタル(第1-1・1-2径間)、防護柵(第1-1径間) 																

サンプルの為、削除しています

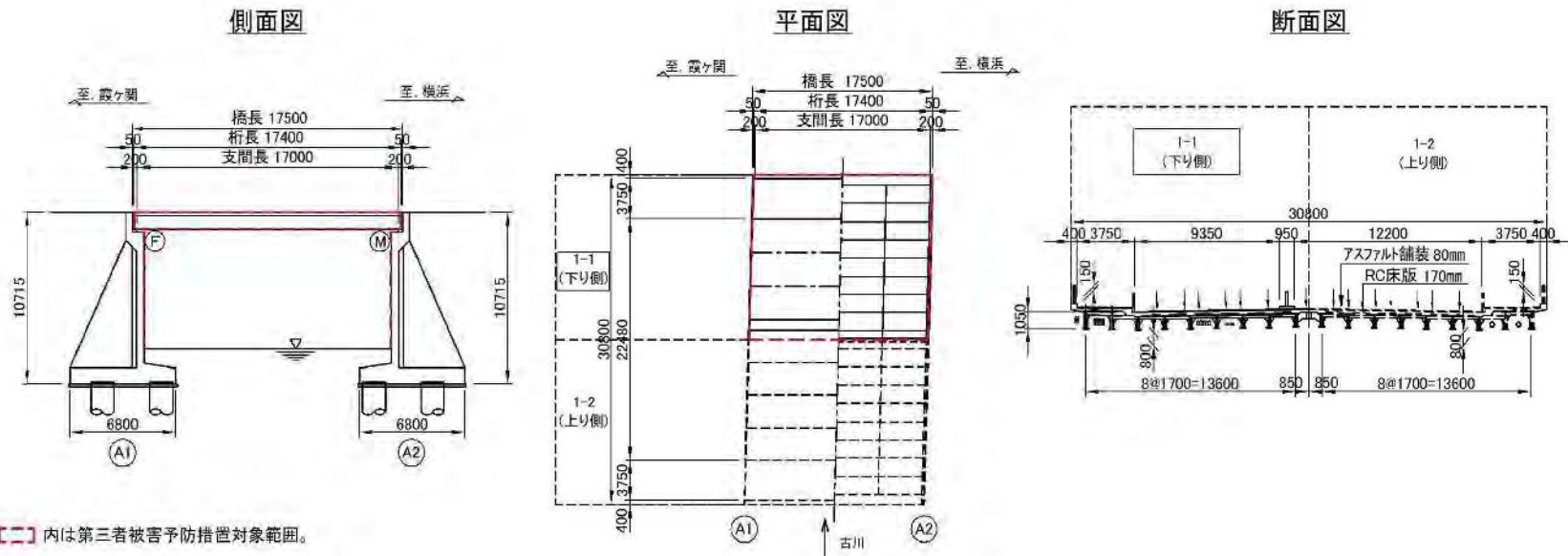
定期点検記録様式(その2) 径間一般図	径間番号	1-1	起点側	緯度		終点側	緯度		橋梁 I D	
				経度			経度			

フリガナ 橋梁名		路線名	一般国道 号 現道	管理者		橋梁コード	0208
-------------	--	-----	-----------	-----	--	-------	------

全体図



一般図



○物理的に近接が不可能であるときや、近接目視によらず状態を把握した場合は、その位置を一般図に残すこと。

サンプルの為、削除しています

定期点検記録様式(その3) 現地状況写真				径間番号		1-1		起点側		緯度		経度		終点側		緯度		経度		橋梁ID							
フリガナ 橋梁名								路線名				一般国道 号 現道				管理者								橋梁コード		0208	
現地状況写真	写真番号	1		撮影年月日	2019.09.02		写真番号	2		撮影年月日	2019.09.02		写真番号	3		撮影年月日	2019.09.02										
	メモ	正面 起点側から								メモ	側面 起点側右								メモ	正面 終点側から							
	  																										
	写真番号	4		撮影年月日	2019.09.02		写真番号	5		撮影年月日	2019.09.02		写真番号	6		撮影年月日	2019.08.26										
	メモ	橋面 下り車道 起点側から								メモ	橋面 下り歩道 起点側から								メモ	桁下面 起点側から							
	  																										

サンプルの為、削除しています

定期点検記録様式(その4) 要素番号図及び部材番号図	径間番号	1-1	起点側	緯度		終点側	緯度	橋梁ID	
				経度			経度		

フリガナ 橋梁名		路線名	一般国道 現道	管理者		橋梁コード	0208
-------------	--	-----	---------	-----	--	-------	------

部材番号図及び要素番号図

主桁(Mg)

1-1 (下り側)	0101	0102	0103	0104
	0201	0202	0203	0204
	0301	0302	0303	0304
	0401	0402	0403	0404
	0501	0502	0503	0504
	0601	0602	0603	0604
	0701	0702	0703	0704
	0801	0802	0803	0804
	0901	0902	0903	0904
	1-2 (上り側)			

(A1)

(A2)

主桁(Mg)
【部材番号図】

1-1 (下り側)	D1
	02
	03
	04
	05
	06
	07
	08
	09
	1-2 (上り側)

(A1)

(A2)

サンプルの為、削除しています

定期点検記録様式(その5) 状態把握の方法			径間番号		起点側	緯度		終点側	緯度		橋梁ID	
						経度			経度			
フリガナ				路線名	一般国道	現道		管理者			橋梁コード	0208
橋梁名												
健全性の診断のための支援	部材名	部材番号	要素番号	理由	対応策・機器等の性能や条件							
記録のための支援												

サンプルの為、削除しています

定期点検記録様式(その6) 橋の健全性の診断に関する所見		径間番号	1-1	起点側	緯度	経度	終点側	緯度	経度	橋梁ID	
------------------------------	--	------	-----	-----	----	----	-----	----	----	------	--

フリガナ		路線名	一般国道 現道	管理者		橋梁コード	0208
------	--	-----	---------	-----	--	-------	------

健全度判定

写真番号(左)	1	写真番号(右)	2	部材名	床版	部材番号	00
損傷の種類	漏水・遊離石灰						
損傷写真							
	Ds0301の漏水・遊離石灰 (様式10写真番号13)		写真1の近傍 (様式10写真番号14)				
所見	<ul style="list-style-type: none"> 歩車道境界直下 (Ds0301) の格間に漏水・遊離石灰が見られる。 橋面からの雨水が浸透し、遊離石灰が析出したものと推定される。 前回点検時 (H26) から損傷範囲に拡大は見られず、進行は遅いと推定される。 遊離石灰に錆汁は見られず、床版の耐力力が低下する状況ではないが、漏水は関連損傷を助長させる可能性がある。 関連する損傷の原因排除の観点からC1判定とした。 						
今回判定	部材毎の対策区分判定	C1	部材毎の健全性の診断	II			
前回判定	部材毎の対策区分判定	C1	部材毎の健全性の診断	II			

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

○損傷写真は2枚までとし、左右に配置すること。

写真番号(左)	3	写真番号(右)		部材名	床版	部材番号	00
損傷の種類	うき						
損傷写真							
	Ds0101のうき。 (様式10写真番号12)						
所見	<ul style="list-style-type: none"> 張出床版の水切り部下面にうき (1100×200mm) が見られる。叩き点検で落下しなかった損傷である。 締固め不足、コンクリートの品質不良が原因と推定される。 前回点検 (H26) では確認されていない損傷であり、進行は不明である。 第三者被害範囲の損傷で、叩き落しても落下しなかったため、剥落対策を実施する必要があるため、C1判定とした。 						
今回判定	部材毎の対策区分判定	C1	部材毎の健全性の診断	II			
前回判定	部材毎の対策区分判定	A	部材毎の健全性の診断	I			

定期点検記録様式(その7) 対策区分判定結果 (主要部材)	径間番号	1-1	起点側	緯度	経度	終点側	緯度	経度	橋梁ID
-------------------------------	------	-----	-----	----	----	-----	----	----	------

フリガナ 橋梁名	路線名	一般国道 現道	管理者	橋梁コード	0208
-------------	-----	---------	-----	-------	------

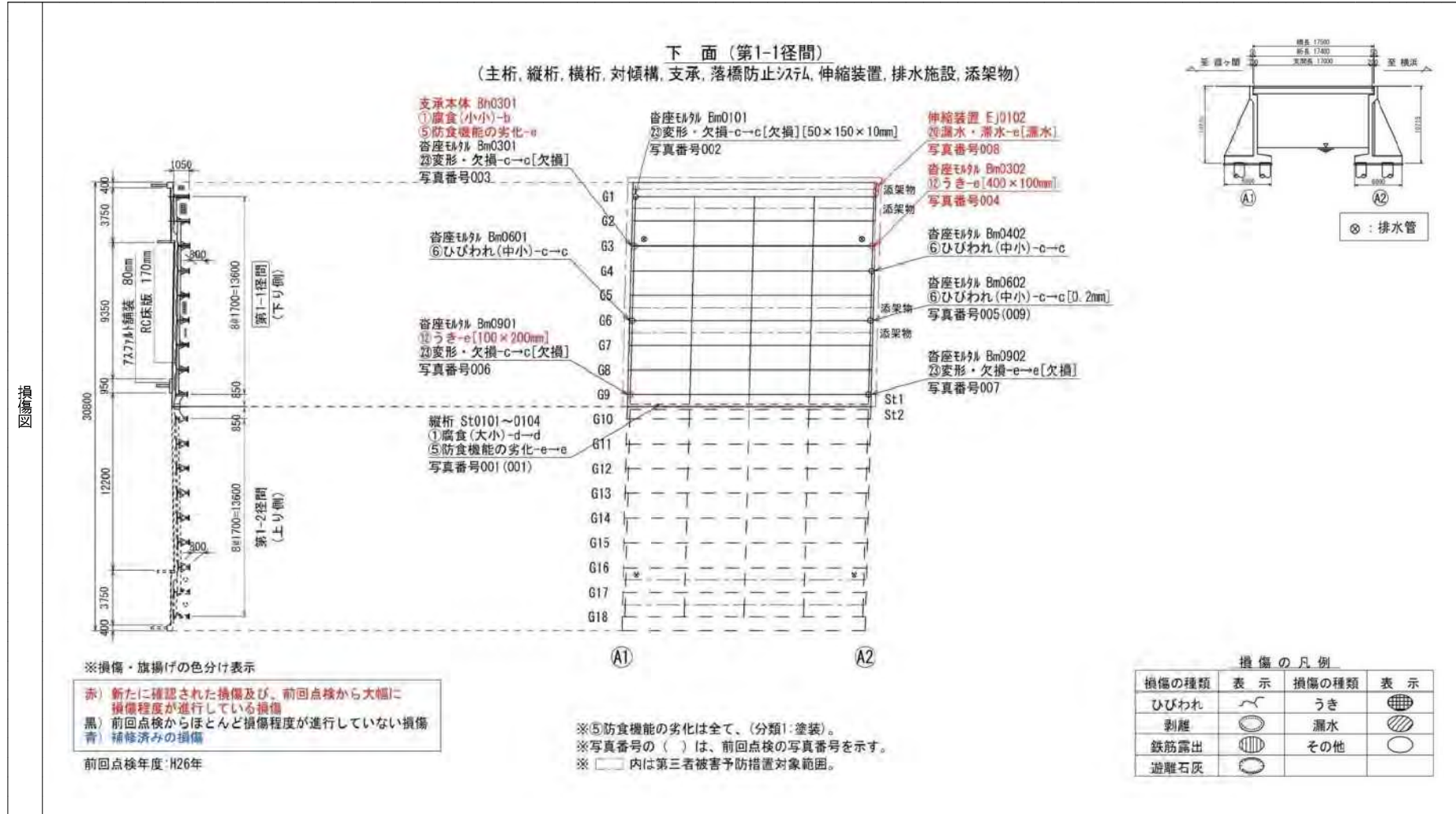
工種	材料	部材種別		損傷の程度		対策区分										診断結果					
		名称	記号	部材番号	最大	最小	補修等の必要性				維持工事で 対策する必要性	緊急対応の必要性		詳細調査の必要性		原因		健全性 (部材単位)	所見等		
							区分B の損傷	区分Cの損傷		区分M の損傷	区分Eの損傷		区分Sの損傷		確定	推定					
								区分C1 の損傷	区分C2 の損傷		区分E1 の損傷	区分E2 の損傷	区分S1 の損傷	区分S2 の損傷							
S	S	主桁	Mg	01	a	a															
S	S	主桁	Mg	02	a	a															
S	S	主桁	Mg	03	a	a															
S	S	主桁	Mg	04	a	a															
S	S	主桁	Mg	05	a	a															
S	S	主桁	Mg	06	a	a															
S	S	主桁	Mg	07	a	a															
S	S	主桁	Mg	08	a	a															
S	S	主桁	Mg	09	a	a															
S	S	横桁	Cr	03	a	a															
S	S	縦桁	St	01	d	d	腐食											⑦その他（ 防水・排水 工不良）	縦桁(1-1径間と1-2径間の縦目地)に腐食が見られる。(再塗装後9年経過) 縦目地からの漏水、再塗装時のケレン不足等が原因と推定される。 前回点検(H26)から損傷範囲に拡大は見られず、進行が遅いと推定される。 腐食は断面欠損まで至っておらず、縦桁の耐荷力が低下する状況ではなく、B判定とした。		
S	S	縦桁	St	01	a	a															
S	S	縦桁	St	01	a	a															
S	S	縦桁	St	01	a	a															
S	S	縦桁	St	01	e	e	防食機能 の劣化											⑦その他（ 防水・排水 工不良）	縦桁01の「腐食」と同様。		
S	S	縦桁	St	01	a	a															
S	S	縦桁	St	01	a	a															
S	S	縦桁	St	01	a	a															
S	S	縦桁	St	01	a	a															

サンプルの為、削除しています

定期点検記録様式(その8) 対策区分判定結果 (様式(その7)に記載以外の部材)										区間番号		1-1		起点側		終点側		橋梁ID	
フリガナ 橋梁名										路線名		一般国道		現道		管理者		橋梁コード	
工種	材料	部材種別			対策区分								健全性 (部材単位)	所見等					
		名称	記号	最大	最小	補修等の必要性				維持工事で 対策する必要性		緊急対応の必要性			詳細調査の必要性				
						区分B の損傷	区分C1 の損傷	区分C2 の損傷	区分M の損傷	区分E1 の損傷	区分E1 の損傷	区分S1 の損傷			区分S2 の損傷				
S	S	対傾構	Cf	a	a												I		
B	S	支承本体	Bh	b	b	腐食											I	支承本体に腐食が見られる。(再塗装後9年経過) 経年劣化、再塗装時のケレン不足、伸縮装置からの漏水などが原因と推定される。 前回点検(H26)は確認されていない損傷である。 橋面の伸縮装置は、本年8月に交換されているため、伸縮装置からの漏水は改善され ていると推定され、進行は遅いと推定される。 支承の機能、安全性が低下する状況ではなく、B判定とした。	
B	S	支承本体	Bh	a	a												I		
B	S	支承本体	Bh	a	a												I		
B	S	支承本体	Bh	a	a												I		
B	S	支承本体	Bh	e	e	防食機能 の劣化											I	支承本体の「腐食」と同様。	
B	S	支承本体	Bh	a	a												I		
B	S	支承本体	Bh	a	a												I		
B	S	支承本体	Bh	a	a												I		
B	S	支承本体	Bh	a	a												I		
B	S	支承本体	Bh	a	a												I		
B	S	アンカーボルト	Ba	a	a												I		
B	S	落橋防止システム	Sf	a	a												I		
B	C	沓座モルタル	Bm	c	a	ひびわれ											I	沓座モルタル(Bm0402,0601,0602)にひびわれ(最大幅0.2mm)が見られる。 モルタルの乾燥収縮、交通振動、支承本体の腐食により発生したものと推定される。 前回点検(H26)から損傷の拡大は見られず、進行は遅いと推定される。 支承の機能・安全性が低下する状況ではなく、B判定とした。	

データ記録様式(その9) 損傷図	径間番号	1-1	起点側	緯度	経度	終点側	緯度	経度	橋梁 I D
------------------	------	-----	-----	----	----	-----	----	----	--------

フリガナ 橋梁名	路線名	一般国道 現道	管理者	橋梁コード	0208
-------------	-----	---------	-----	-------	------



サンプルの為、削除しています

データ記録様式(その10) 損傷写真			径間番号	1-1	起点側	緯度	経度	終点側	緯度	経度	橋梁ID	
フリガナ 橋梁名				路線名	一般国道	現道	管理者				橋梁コード	0208
備考												

損傷写真	写真番号	1	撮影年月日	2019.08.26	写真番号	前回-1	撮影年月日	2014.10.07	写真番号	2	撮影年月日	2019.08.26	
	部材名	縦桁	要素番号	0101	部材名	縦桁	要素番号	0101	部材名	脊座モルタル	要素番号	0101	
	損傷の種類	腐食	損傷程度	d	損傷の種類	腐食	損傷程度	d	損傷の種類	変形・欠損	損傷程度	c	
			前回損傷程度			前回損傷程度			前回損傷程度				
			d			d							
			メモ			メモ							
			S11縦桁に腐食が見られる。 ⑤防食機能の劣化-e 【進行無し】		前回の点検年度:2014年度		①腐食-d ⑤防食機能の劣化-e		A1G1脊座モルタルに50×150×10mmの欠損が見られる。 【進行無し】				
	写真番号	3	撮影年月日	2019.08.26	写真番号	4	撮影年月日	2019.08.26	写真番号	0	撮影年月日		
	部材名	脊座モルタル	要素番号	0301	部材名	脊座モルタル	要素番号	0302	部材名		要素番号		
	損傷の種類	変形・欠損	損傷程度	c	損傷の種類	うき	損傷程度	e	損傷の種類		損傷程度		
		前回損傷程度			前回損傷程度								
		c											
		メモ			メモ								
		A1G3脊座モルタルに欠損が見られる。 支承本体 ①腐食-b ⑤防食機能の劣化-e 【進行無し】 【①⑤は新規損傷】				A2G3脊座モルタルに400×100mmのうきが見られる。 【新規損傷】							

サンプルの為、削除しています

データ記録様式(その11) 損傷程度の評価記入表 (主要部材)			区間番号	1-1	起点側	緯度	経度	終点側	緯度	経度	橋梁ID
------------------------------------	--	--	------	-----	-----	----	----	-----	----	----	------

プリガナ 橋梁名	路線名	一般国道	現道	管理者	橋梁コード	0208
-------------	-----	------	----	-----	-------	------

工種	材料	部材種別			損傷程度			損傷 パターン	損傷の種類	分類
		名称	記号	要素番号	損傷程度の評価	定量的に取得した値	単位			
S	S	主桁	Mg	0101	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0102	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0103	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0104	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0201	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0202	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0203	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0204	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0301	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0302	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0303	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0304	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0401	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0402	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0403	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0404	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0501	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0502	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0503	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0504	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0601	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0602	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0603	a				NON	
S	S	主桁	Mg	0604	a				NON	

サンプルの為、削除しています

データ記録様式(その1.2) 損傷程度の評価記入表 (データ記録様式(その1.1)に記載以外の部材)			経路番号	1-1	起点側	評度	終点側	評度	橋梁ID

フリガナ 橋梁名		路線名	一般国道	現道	管理者		橋梁コード	0208
-------------	--	-----	------	----	-----	--	-------	------

工種	材料	部材種別			損傷程度			損傷 パターン	損傷の種類	分類
		名称	記号	要素番号	損傷程度の評価	定量的に取得した値	単位			
S	S	対傾構	Cf	0101	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0102	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0104	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0105	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0201	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0202	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0204	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0205	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0301	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0302	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0304	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0305	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0401	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0402	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0404	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0405	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0501	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0502	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0504	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0505	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0601	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0602	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0604	a				NON	
S	S	対傾構	Cf	0605	a				NON	

サンプルの為、削除しています

データ記録様式(その13) 損傷程度の評価結果総括					経路番号	1-2	起点側	観度	観度	観度	観度	橋梁ID	
フリガナ 橋梁名					路線名 一般国道 現道			管理者			橋梁コード		0208
工種	材料	部材種別			今回定期点検	点検日	2019年09月02日	前回定期点検	点検日	2014年10月07日			
		名称	記号	部材番号	損傷の種類(程度)			損傷の種類(程度)					
S	S	主桁	Mg	10	NON(a)								
S	S	主桁	Mg	11	NON(a)								
S	S	主桁	Mg	12	NON(a)								
S	S	主桁	Mg	13	NON(a)								
S	S	主桁	Mg	14	NON(a)								
S	S	主桁	Mg	15	NON(a)								
S	S	主桁	Mg	16	腐食(b),防食機能の劣化(e)			腐食(d),防食機能の劣化(e)					
S	S	主桁	Mg	17	NON(a)								
S	S	主桁	Mg	18	NON(a)								
S	S	横桁	Cr	03	NON(a)								
S	S	縦桁	St	02	腐食(d),防食機能の劣化(e)			腐食(d),防食機能の劣化(e)					
S	S	対傾構	Cf	00	NON(a)								
S	C	床版	Ds	00	剥離・鉄筋露出(d),漏水・遊離石灰(d),床版ひびわれ(d)			剥離・鉄筋露出(d),漏水・遊離石灰(d),床版ひびわれ(d)					
A	C	胸壁	Ap	01	ひびわれ(c),漏水・遊離石灰(d),漏水・滞水(e)			ひびわれ(c)					
A	C	胸壁	Ap	02	ひびわれ(c),漏水・遊離石灰(d),漏水・滞水(e)			ひびわれ(c),漏水・遊離石灰(d)					
A	C	縦壁	Ac	01	ひびわれ(d),うき(e),その他(e)			ひびわれ(d)					
A	C	縦壁	Ac	02	ひびわれ(d),剥離・鉄筋露出(c),漏水・遊離石灰(d),うき(e),その他(e)			ひびわれ(d),漏水・遊離石灰(d),うき(e)					
A	C	翼壁	Aw	01	NON(a)								
A	C	翼壁	Aw	02	NON(a)								
F	C	フーチング	Ff	01	不可視			不可視					
F	C	フーチング	Ff	02	不可視			不可視					
B	S	支承本体	Bh	00	腐食(b),防食機能の劣化(e)			腐食(b),防食機能の劣化(e)					
B	S	アンカーボルト	Ba	00	NON(a)								
B	S	落橋防止システム	Sf	00	NON(a)								

5. 道路管理データ (MICH) 様式例

橋梁台帳

サンプルの為、削除しています

名称 :		路線名 :	国道 号	現旧区分 :	現道	整理番号 1	00080
現在地(白) :		距離標(白) :				調整年月日	19950301
(至) :		(至) :				改訂年月日	20130228

【基本緒言】

橋梁区分 : 本線橋 橋梁種別 : 橋 上部工分離・橋脚 一体構造の別 : * 分割区分 : 上下線一体 事業区分 : 街路 路線名(俗称) : 国道 号	橋長 : 17.50 m 総径間数 : 1 橋面積 : 525.0 m ² 平面形状 : 斜橋 最小半径 : * m 縦断勾配 : 1.600 %	架設竣工年 : 1974 橋の等級 : 1等橋 適用示方書 : 昭和39年 設計活荷重 : TL-2.0 水平震度 : kh=0.25
[交通規制] 通行制限 : 通行制限 無し 荷重制限 : * tf 制限 高さ : * m 幅 : * m 迂回路の有無 : 有り 交通現況 : 渋滞がほぼ毎日、長時間にわたり生じる	[舗装] 種別 : アスファルト系 面積 : 393.8 m ² 粒度 上層 : # 下層 : * 種類 上層 : # 下層 : * 厚さ 上層 : 3.0 cm 下層 : 5.0 cm	[特殊荷重] 1 : # 2 : # 3 : # 4 : # 5 : # 6 : #
[他域橋長] 起点側所在地 : 終点側所在地 : * 起終点区分 : * 他域延長 : m	[照明] 有無 : 無し 歩道添架の有無 : 無し 点検施設 : 点検施設無し 排水施設 : たれ流し型式 遮音壁の有無 : 無し 遮光壁の有無 : 無し 踏掛版の有無 : 無し 凍結防止剤の 散布回数 : 散布しない	[基本耐荷力] 主桁, 主構, トラス橋 載荷弦 : # tf その他 : # tf 床版 : # tf 縦桁・横桁 : # tf
[橋梁接続] 起点側 市区町村 : * 橋梁種別 : * 事務所コード : * 出張所コード : * 橋梁コード : * 分割番号 : * 終点側 市区町村 : * 橋梁種別 : * 事務所コード : * 出張所コード : * 橋梁コード : * 分割番号 : *	[消雪パイプ] 有無 : 無し [ロードヒーティング] 有無 : 無し [床版防水工] 種別 : 塗膜系 範囲 : その他部分的 面積 : 100.0 m ² 塩害地域区分 : D 塩害地域距離 : 1.5 km	工費 上部工 : # 百万円 下部工 : # 百万円 備考 :
	[落下物防止柵] 高さ : * m 延長 : * m	

橋梁台帳

サンプルの為、削除しています

名称 :		路線名 :	国道 号	現旧区分 :	現道	整理番号 1	00080
所在地(白) :		距離標(白) :				調整年月日	19950301
(至) :		(至) :				改訂年月日	20130228

【上部工諸元】

構造体番号	径間番号	支間長(m)	材料区分	桁形式区分	路面位置	構造形式	床版種類使用形式	床版厚(cm)	本体塗装面積(m ²)	高欄塗装面積(m ²)
1	10	17.000	鋼溶接橋	単純桁	上路橋	I桁(合成)	場所打床版	17.0	1080.0	41.0

橋梁台帳

サンプルの為、削除しています

名称	路線名	国道	号	現旧区分	現道	整理番号	00080
所在地(白)	距離標(白)			網整年月日	19950301	改訂年月日	20130228
(至)	(至)						

【下部工諸元】

躯体番号	構造形式	基礎形式	抗径(m)	杭本数	本体塗装面積(m ²)	備考
A1	控え壁式橋台	場所打ぐい(深礎を含む)	1.5	16	*	
A2	控え壁式橋台	場所打ぐい(深礎を含む)	1.5	16	*	

橋梁台帳

サンプルの為、削除しています

名称 :		路線名 :	国道 号	新旧区分 :	現道	整理番号 1	00080
所在地(白) :		距離標(白) :				調整年月日	19950301
(至) :		(至) :				改訂年月日	20130228

【幅員】

全幅員 m	有効幅(m)	左側						中央帯 m	分離帯 m	右側						供用開始 年月日
		地覆幅 m	地覆高さ m	歩道幅 m	路肩幅 m	車道幅 m	車線数			車線数	車道幅 m	路肩幅 m	歩道幅 m	地覆高 さ m	地覆幅 m	
30.80	30.00	0.40	0.15	3.75	0.75	9.75	3	1.50	1.00	3	9.75	0.75	3.75	0.15	0.40	197403 24

【高欄・防護柵】

整理番号 2	設置個所	高欄・防 護柵の別	材質(材料)	形式	防護柵 設計種 別	高さ(m)	備考
0001	左 歩道端	防護柵	*	*	路側用	*	
0002	左 歩車道境界	防護柵	*	*	路側用	*	
0003	右 歩車道境界	防護柵	*	*	路側用	*	
0004	右 歩道端	防護柵	*	*	路側用	*	

【交差状況】

整理番号 2	架橋状況	交差物名 称	協議有無	協議機関	備考
0001	河川開水路・湖沼		有り		

橋梁台帳

サンプルの為、削除しています

名称 :		路線名 :	国道 号	現旧区分 :	現道	整理番号 1	00080
所在地(白) :		距離標(白) :				調整年月日	19950301
(至) :		(至) :				改訂年月日	20130228

【添架物諸元】

整理番号 2	添架物区分	添架物種別	寸法 (電話・電力→XX条XX段) (上記以外 → φXXXmm)	占用物件本数	重量(kgf/m)	管理者名	備考
0001	占用添架物	上水道	0400	1	212	東京都水道局	
0002	占用添架物	電力	?	?	491	東京電力(株)	
0003	占用添架物	電話	?	?	187	日本電信電話(株)	
0004	占用添架物	ガス	400	1	60	東京ガス(株)	

【塗装歴】

整理番号 2	上・下部工区分	径間又は躯体番号	塗装年月日	下塗塗料	中塗塗料	上塗塗料	本体塗装 (㎡)	高欄塗装(㎡)	塗装色
0001	上部工	10	19910000	エポキシ樹脂下塗り塗料	ポリウレタン樹脂用中塗り塗料	ポリウレタン樹脂上塗り塗料	1067.0	0.0	?
0002	上部工	10	20110323	エポキシ樹脂下塗り塗料	フッソ樹脂用中塗り塗料	フッソ樹脂上塗り塗料	1109.0	0.0	42-70H

橋梁台帳

サンプルの為、削除しています

名称	路線名	現旧区分	現道	整理番号1	00080
現在地(白)	距離標(白)			調整年月日	19950301
(至)	(至)			改訂年月日	20130228

【補修歴】

整理番号2	上・下部工区分	径間又は躯体番号	補修年月日	主な補修・改良内容	備考（原因等）
0001	上部工	10	19860331	高欄全長の取り替え	#
0002	下部工	A1	19890331	落橋防止装置（その他）	#
0003	下部工	A2	19890331	落橋防止装置（その他）	#
0010	上部工	10	20050228	床版（その他）	橋梁補強工事炭素繊維シート貼付け
0011	上部工	10	20050228	高欄全長の取り替え	橋梁補強工事高欄全長の取り替え
0012	上部工	10	20050228	落橋防止装置の設置	橋梁補強工事落橋防止装置の取付け
0013	上部工	10	20050228	舗装部分打ち替え	橋梁補強工事舗装部分打ち替え

橋梁台帳

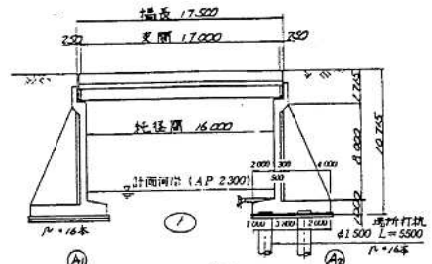
[名称]

図面種別： 一般図

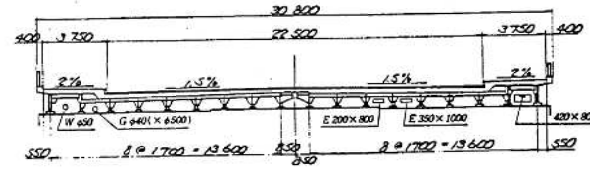
サンプルの為、削除しています

管理番号 00080

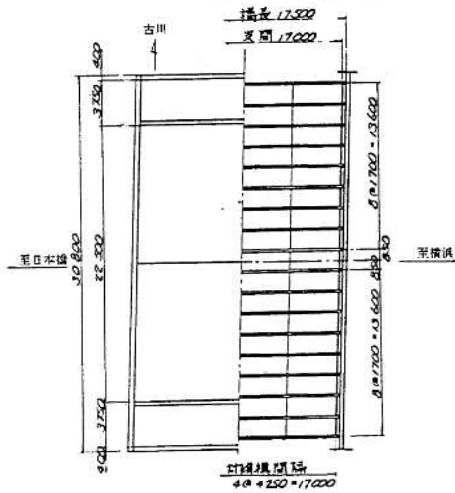
側面図 S-V320



断面図 S-1/230



平面図 S-1/320



古川……道々、水証、水道、ガス

(2)

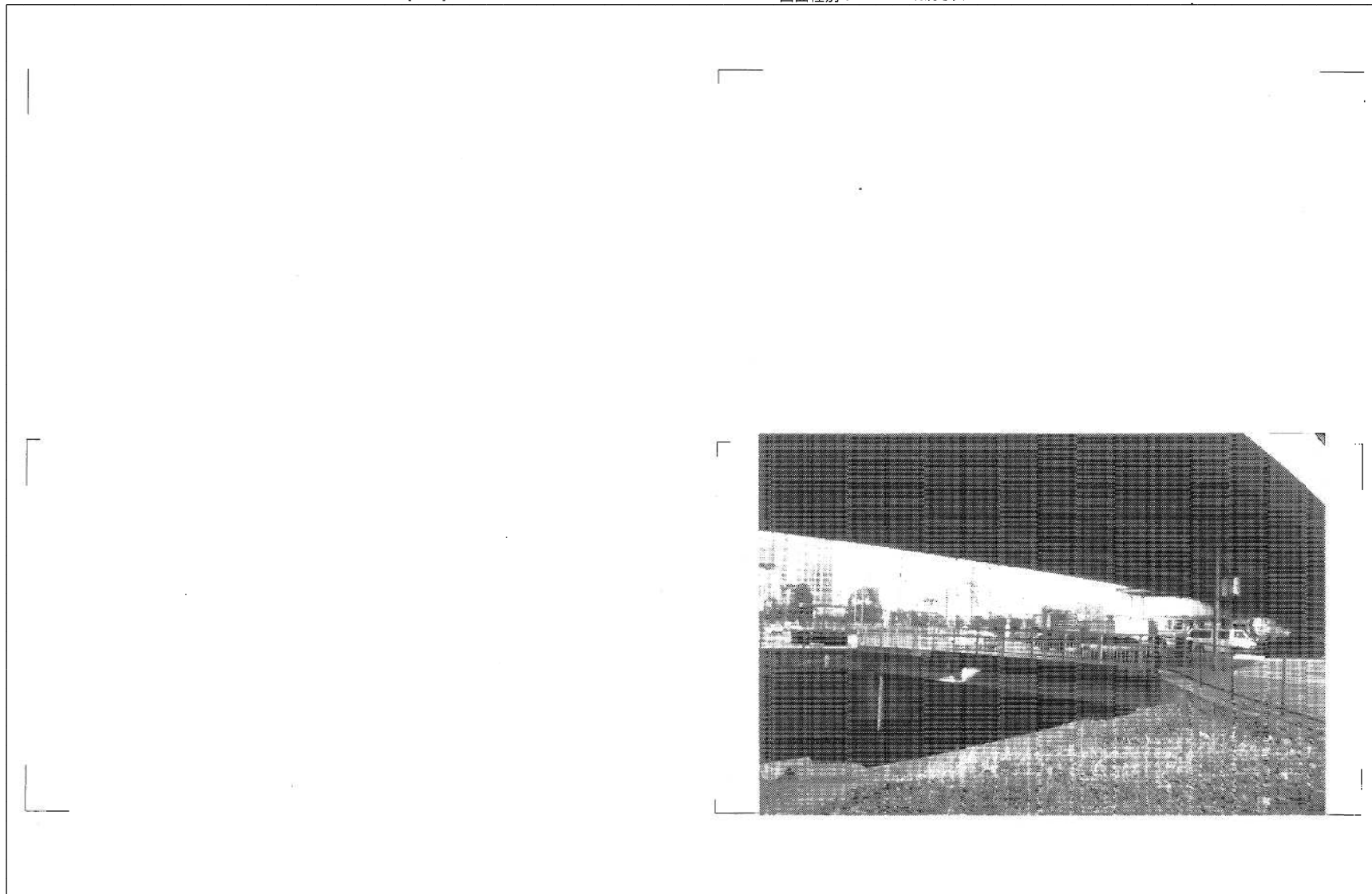
号標	/	橋名	
----	---	----	--

橋梁台帳

[名称]

図面種別： 現況写真

管理番号： 00080



橋梁台帳

[名称]

図面種別： 現況写真

管理番号： 00080

